

トゥルーノース・プログラム メンタルヘルスをサポート *True North program embeds mental health resilience at Yokota*

August 5, 2022

By Staff Sgt. Ryan Lackey
374th Airlift Wing Public Affairs

米空軍公認のメンタルヘルス・イニシアチブ「トゥルーノース・プログラム」は、2021年3月に最初のプログラム・マネージャーが横田基地に着任して以来、部隊のプログラム推進担当者の数を着実に増やしている。

「トゥルーノース」の使命は、身近に相談できるソーシャルワーカーや教会スタッフを紹介することであり、カウンセリング対象を部隊の軍人に限定し、積極的に助けが求められる文化を促進し、レジリエンスのスキルを教え、必要に応じてより高度なケアを受けられるようにする相談役を担う。

「トゥルーノース・プログラム」のマネージャーであるネレダ・ダビラ・アマヤ氏は、「(プログラムの)目標は、メンタルヘルスが危機に陥る前に、個人の悩みを解決に導くこと」「私たちの仕事は、病を未然に防ぐことを目指している。特に海外で任務している場合は、生活や仕事のストレスが増大することがある。医療群のメンタルヘルス・プロバイダーと連携して、軍人たちが気軽に初期のケアを受けられるようにするこの取り組みは、メンタルヘルス小隊の負担を減らし、最も必要とする人たちにより集中できるという、サービスの需要にプラスの効果をもたらしている」と述べた。



第374整備群や第374憲兵中隊など、仕事や生活の上でのストレスが高リスクになりやすいと認められた部隊には推進担当者が増員され、皆が第374医療群のメンタルヘルス小隊や基地内の司令官と連携を図っている。

第374空輸航空団司令部直属部隊先任下士官ランデン・シファーリン曹長は、「この(「トゥルーノース」の)カウンセラーの任務は一つではない」と述べ、「(カウンセラーは)部隊の幹部への助言から、チームで行うレジリエンスクラスの促進、さらにはフィジカルトレーニングの応援に至るまで、あらゆるレベルで関わっている。彼らはチームの真の“エース”であるため、幹部は彼らの定期的な協力を求めている」と言及した。

「トゥルーノース・プログラム」の軍人を対象に絞ったカウンセリングは、隊員にとって安心且つプライバシーが守られた選択肢となるようデザインされており、個人的な悩みについて相談しやすい環境が作られている。

ダビラ・アマヤ氏は、「軍人たちはメンタルヘルス・クリニックに行くこと、個人的なことを記録されることに不安を感じることもあると思う」と述べ、「ライセンスを取得している臨床ソーシャルワーカーは、予約なしでも会話のプライバシーを守り、外部に漏らさず話すので、信頼できる。私たちは、医学的、精神的、財政的、または他の理由で必要な場合、解決のために適切なより高いレベルのケアに導いていく」と述べた。

横田基地「トゥルーノース・チーム」の最初の一員は昨年に着任したが、多くの推進担当者は今年4月に着任したため、プログラムはようやく本格的に動き始めたところだ。チームはプログラムマネージャー2名と推進担当者7名で構成されており、年末までに更に推進担当者が3名着任する予定だ。

レジリエンシーは、メンタルヘルス、精神、自信を強化するための積極的な取り組みである。空兵をカブける「トゥルーノース・プログラム」のような取り組みを行うことで、空軍はスキルを携えた空兵を維持し、個々の即応力によって任務遂行能力を大きく向上させることができる。